

2023年7月24日 第53回研究報告会 宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利です。

本日の第53回研究報告会に大変多くの皆様にご参加の申込みをいただいております。また、暑い中、この会場にも多くの皆様に足をお運びいただいております。誠にありがとうございます。

まず最初に、当研究所の所長が、6月26日の評議員会及び理事会の議を経て、山内弘隆から屋井鉄雄に交替いたしましたことをご報告申し上げます。屋井所長には、この後本日の研究報告の解説をしていただきます。

さて、前回の研究報告会を本年1月に開催してから、半年が経過しました。この間に我が国では、COVID-19に起因した規制や制約もほぼ無くなり、社会・経済活動や日常生活は平時を取り戻しつつありますが、それは様々な場面でパンデミック前とは異なる様相を呈しています。

一方で、長期化するロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、米・中対立と相俟って、冷戦後の国際秩序を脅かし、エネルギーや食糧などのグローバルサプライチェーンを毀損し、世界各国の社会・経済に大きな影響を与えています。

このような内外の社会・経済情勢の激変は、我が国の交通・観光分野に対し甚大な影響を及ぼし、人材不足などのパンデミック前からの課題を一層深刻化させ、交通産業・観光産業の革新、デジタルトランスフォーメーションの推進、脱炭素の加速化の必要性を際立たせました。

これらの課題に対する取組みについては、中長期的な視点に立ちつつ、国際的な知見を活かし、また、国際的な動向を見極めながら進めていくことが求められます。

本日は、少しお時間をいただいて、今年度の当研究所の活動方針と主な取組みについて、ご紹介させていただきたいと思っております。

まず、当研究所としては、先ほど申し上げた認識に基づき、3つの基本方針を定め、これに則り今年度の活動の充実を図ります。

第一に、既にアフターコロナの時代下であることを前提として、内外の諸活動を実施します。

第二に、国際的に取り組むべき普遍的な課題や、我が国における重要な政策課題に関連する活動に重点化します。

第三に、当研究所が行う国際的な諸活動と国内における研究調査等の活動との有機的な連携を徹底します。

その上で、今年度の研究調査の重点テーマとして、新たに、①交通機関の脱炭素化・自動化が交通産業に及ぼす影響と対応方策に関する調査研究、②30年余に及ぶ、平成期における我が国の交通政策及び観光政策を集大成するための調査研究、にそれぞれ着手しております。

このほか、③地域交通産業・地域観光産業の基盤強化と事業革新、④DXによる物流の革新、⑤海事・航空分野における脱炭素化方策などの重点テーマについて、有効な政策提言を行うべく、昨年度から継続して、研究調査に着実に取り組んでまいります。

また、昨年度まで2年間にわたり実施した「2050年の日本を支える公共交通のあり方」に関する調査研究については、その成果となる提言を6月中旬に公表した上で、その直後に開催したシンポジウムで、広く国民的議論の喚起を図りました。今後は、この提言で示された諸課題についてそれぞれ深掘りした研究調査に取り組みます。

さらに、昨年度新設された、日本財団グローバル基金事業による、欧州等の最新動向等の調査研究を継続し、その成果を適宜皆様にご報告するとともに、研究や政策提言に反映します。

また、今年度新たに設置された日本財団海事・海洋基金事業により、海事・海洋分野の政策課題に関する調査研究を進めるべく、現在準備をしております。

当研究所の諸活動については、東京の本部と米国のワシントン国際問題研究所(JITTI)及び2021年にタイ王国バンコクに開設したアセアン・インド地域事務所(AIRO)とが連携して、広域的かつ戦略的に進めてまいります。

この一環として、本年度も既に、私や奥田専務理事がそれぞれ、タイ、米国、インド、ベトナムなどを訪れ、相手国政府の要人や官民の交通運輸・観光関係者と会談を重ねて、当研究所との関係の構築・強化に努めています。

国内においては、本年3月に来日した韓国海運協会(KSA)及び韓国

海洋水産研究院(KMI)と会談し、当研究所との連携・協力について合意しました。今後海事・海洋分野について日・韓の間で具体的な活動を進めてまいります。

また、7月上旬に神戸で開催された国際航空輸送学会(ATRS)世界大会では、当研究所の研究者 2 名が研究発表を行い、また、最優秀論文として選定された論文に対し、私から JTTRI 賞を授与しました。

この他、国内外の研究機関等との連携・交流については、5月にドイツで開催された国際交通フォーラム(ITF)交通大臣会合で当研究所の研究者 2 名が研究発表を行いました。

また、今年 17 日から5日間カナダで開催された世界交通学会(WCTRS)の大会では、当研究所の研究者2名が研究発表を行うとともに、私から高速鉄道に関するセッションの開会挨拶を行いました。

9月にマレーシアで開催されるアジア交通学会(EASTS)の大会でも、当研究所の研究者 6 名が研究発表を行うとともに、優秀論文に対し、JTTRI 賞を授与する予定です。

また、中国国家発展改革委員会総合運輸研究所(ICT)及び韓国交通研究院(KOTI)との間では、それぞれ、今年 26 日に北京で日中運輸経済技術交流会議を、11月に韓国でジョイントセミナーを開催する予定です。

また、昨年 12 月からスタートしました JTTRI グローバルセミナーについては、11月に、ビラハリ元シンガポール外務次官ほかの参加を得て、ASEAN 諸国と日本との新たな次元の関係構築をテーマとして、また、来年1月には、英国インペリアル・カレッジ・ロンドンのスミス教授ほかの参加を得て、英国と EU の鉄道政策をテーマとして、開催する予定です。

一方、海外における活動として、タイでは、今年 2 月に日・タイの観光に関するシンポジウムを、6月にはタイの物流に関するシンポジウムの第2回目を開催し、米国では 3 月に日米の交流・観光に関するシンポジウムを開催しました。

今後は、10月に米国で日・米の航空に関するシンポジウムを開催する予定であり、また、ベトナムでは、日越外交関係 50 周年を記念して、10月に観光をテーマとするシンポジウムを、12月には交通・運輸をテーマとするシンポジウムを開催する予定です。

以上、今年度の当研究所の活動について、かいつまんでご紹介いたしました。

さて、この研究報告会は、1997年に年2回開催する形でスタートし、最近では、研究員からの研究報告に対し、それぞれコメンテータをお招きし、討論の時間を設ける形式で行うことにしております。

本日は、安部客員研究員と邱研究員から報告を行います。安部客員研究員は、2017年から3年間当研究所の研究員として活躍されましたので、ご存知の方も多いと思います。邱研究員は、台湾の出身で、今年6月から当研究所の研究員となり、今回が初めての研究報告です。

本日の研究報告会について、その内容と形式が皆様のご期待に応えられるものになっているかどうか、ぜひ忌憚のないご意見・ご感想をいただき、今後の当研究所の活動の改善・充実に活かしてまいりたいと考えております。

最後になりますが、この場をお借りして、当研究所の活動について日頃より手厚くご支援を頂いております日本財団に対し、心から感謝申し上げます。

当研究所といたしましては、本年度も諸々の活動を通じて、皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、引き続き、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶といたします。

以上